

二天門

二天門は、金峯山寺の南側の門でしたが、1341年に消失して以来、再建されていません。今に残る史料によると、二天門は瓦屋根で、朱色の2階建ての門でした。

この門には、現代の日本人の心をも揺るがす14世紀に起こった事件が伝えられています。

日本は、12世紀から武家が政権を執っていましたが、14世紀はじめに天皇の位に就いた後醍醐天皇は、政権を朝廷に取り戻そうと努力されました。それを助けるため、護良親王（1308-1335）は、家来とともに山伏に変装して吉野山に入り、武家政権に対抗しました。

しかし武家の大軍に攻められ、護良親王は自害することを覚悟されました。その時、忠臣の村上義光は、親王を吉野から脱出させるために、自ら身代わりになると決意しました。義光は、二天門の2階に駆け上り、押し寄せてくる敵勢の前で、自分は護良親王であると名乗った後、腹一文字に掻き切って自害して果てたのでし

た。その際に、本物の護良親王は僅かな家来とともに、高野山に向かって逃げる事が出来ました。この自らの命を捨てた彼の献身的、英雄的な行動は、今も語り継がれています。

村上義光の勇敢な功績を記念して、かつて二天門があった場所の横に石柱が建てられました。